

青春スクロール

母校群像記

saitama@asahi.com

恐竜・生物・天文 思い出胸に研究の道へ

理系の女子学生「リケジョ」という言葉が初めて朝日新聞に登場したのは2010年10月。熊谷女子高校（以下、熊女）のリケジョはそれ以前から様々な分野に進み、活躍している。

南米アルゼンチンで07年に発見された新種の恐竜の学名「グアリチヨ シンヤエ」に名を残すのは新谷明子（51、1989年卒）。米シカゴのフィールド博物館で化石を良好に保存する部署の責任者をしてながら、発掘のために世界を飛び回る。化石に興味を持ったとき



新谷は「高校生は大人の窓口。自分を磨いて」と後輩に伝えたいそうだと



県立熊谷女子高校 6

っかけは、子どもの頃に持っていた色鉛筆の箱に描かれた恐竜の絵。以来、時間を見つけては東京・上野の国立科学博物館に足を運んだ。「熊女の頃も学校をサポートして友達と何度か行きました。今だから言えますが」

アンサンブルマジヨリティ部の活動と鈴懸祭（文化の部）の準備ばかりしていたような3年間だった。「キャンプファイアの周りをみんなで踊った鈴懸祭は一生の思い出」。今でも発掘旅行先で火を囲む。

名古屋大院講師の石川由希（38、



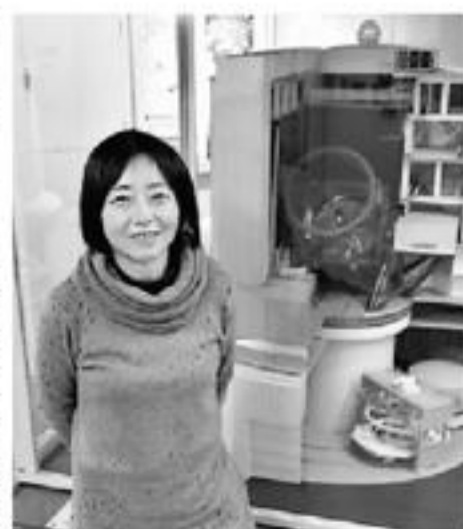
麻乃（右）の担任で今は校長を務める浅海純一を訪問した際、由希と校長室で。在校生向けの講演要請に「喜んで」と2人

2002年卒）、東大院准教授の麻乃（同）の双子姉妹は、ともに生物学系の気鋭の研究者。新谷同様、熊女で一番熱中したのは鈴懸祭。「2人とも運動は苦手なのですが、体育の部の方の創作ダンスにひき付けられた」と由希。1

3年の縦割りグループで披露するもので衣装は手作り。3年生がデザインから材料、型紙までそろえる。「そんな先輩たちが格好よくて、下級生の性格をつかんで、あくまで楽しく進むダンス練習もすこかった」と麻乃。最上級生になると下級生に振り付けを指導する立場に。「材料の買い出しに街に出ると『おーっ、熊女か。頑張れ』って、値引きしてくれたりね」と2人は顔を見合わせた。

大学では最近、教員と距離を取る学生が増えているという。「鈴懸祭の経験を生かし、学生と楽しい距離感で研究を進めていきたい」。膨大な観測データを解析して様々な銀河の進化を研究する古沢順

米ハワイにある「すばる望遠鏡」の観測データ解析も古沢の仕事。「リモートが増え、行く機会が減り残念」



子（47、1993年卒）は、国立天文台の特任研究員。ソフトボール部では三塁手。部長も務めた。3年生が引退した夏の初合宿のこと。校内の施設で1年生だけで入浴していたら、浴室の高窓や脱衣室から2年生の顔、顔、顔。でも、なぜか悲鳴を上げたのは2年生の方。「情報をキャッチしていて服を着ていたんです」。仲の良かった先輩と、より距離が縮まった。

「力仕事は少ないし、理解ある男性研究者も多い」と後輩をいさなう天文の世界。自身が進んだのも別の大学の天文サークルで夫の久徳（48）と出会ったのがきっかけ。いまは職場の同僚だ。

敬称略